古今著聞集　十七　（元禄三年版）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

古今著聞集

十三

文化財共同研究

林家文庫藏書之印

古今著聞集巻第十七

怪異　オホヤケ

怪異の事

白氏文集に宋玉の神女賦を作りて人間の非常の事を怪異と云ふ

延喜八年十月十六日の比ほひ流星東より西へ

[illegible]

龍尾殿

57B0541

あらかりて宮柵やぶれよきれど地ハ人へさりきり
出雲国秋鹿郡の北海より海と云ふ小海
海幸をしおほくたひらり天皇三年十月上旬より
おこりたちえうせくるこがくこれをたゝんで
こうばこそばこそばらてあきる
同三年四月下旬おほく海辺憂ひつゝ多の人より
狂あけくるれどし海和のありれさひより情逢
和のひまで一所あり行あるりをうきて憐
とつりてなるべしてあるをきりをあるきこと
あるりめぐり七八人ぞあきる後ハうさ

きん海れをひくいをとなるをうれ行ーりをを
多年く
後朱雀院の代れをえ小塗月をこれられるに大
人むりれこうれびようけく宮季れ出岸風れうへ
より人へを多ぐうをを出洗じてのらはこうをひ
ふあぐうを拾ひくいくほどなるて崩御ありきり
れて病ーりきる年く世の人小櫻の出和かをぞや
きれ和のかってこはいひをんあるつあれ
崇徳院位のとれ保延六年の秋の法出美小白河
院御病ありよりをれどこぐくいしてれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いふこゝろなるを
法華經の要義のこゝろをとゝのへ
とりにむかひてとりをもつに風わるく吹こゝ
ろもとのうり法師をしてゝり仲の冠をとくかう
りく正人の郡のこゝろをるに人はとゝさをるゆう
ふめりよりりくわざこゝあつりをりさてしをあるく
こゝ事をこゝ孫ぐいゝ花をぐこゝ冠をえてえてゝ
こゝ法はこゝ年ゝこゝりのてうをこゝ生にこゝりをゆうれるいわ
やしむこゝ

變化 中卅七

千變萬化未始有一物也こゝりこゝ人のゝとまゝこゝ
といへども物を信ずとこゝりあるこゝ事こゝ
仁和三年八月十七日京の附中にいはる者こゝ
よ若きこゝ八幡宮の物こゝ氏あるよみあこゝ氏女
房三人ひゝこゝ物こゝ物の中不宮道兼業なる男
いでこゝ一人の女氏こゝ物ゝ物ゝ三けこゝ物こゝ
を物こゝ多こゝ多こゝ物ゝ物ゝこゝ
てゝ氏ゝ物こゝ氏こゝ物こゝ物こゝ物こゝ
右業こゝ物こゝ物こゝ物こゝ物こゝ物こゝ

くゆきて只きれば きりぐつもあり きりぎり鬼はたゞ
ざかりて 此の日 法ぎれば 法ぎりれく 法ぎりの
事 ありきりて 法ぎれば 物 ぎれば 西の廊 小 家
法しあり きりて 法ぎれば 法ぎりて 法動の こ きれば
べ 法ぎれば 法のそと 出 くはまで ゆて きべ まりて
るも おりきり 見 ぎれば ゆるまりて 出つる
とあく たゞひ ゆきれば 法 ぎれば 法 ぎれば
ぎりの 物 ぎりて ぎりて ぎりて ぎりて 月 ぎりて
法ぎれば 法ぎれば 法ぎれば 法ぎれば 法ぎれば
延長七年 宮 内 家 小 鬼 はわ と ぎり

鬼門 内 外 桂 芳 坊 の 中 ぎり 小 家 廊 常 寧 殿 内 門
中 ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
同八年六月廿日 宮多流の 法 法 を 法 右近の 法 を
法 ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
近の 法 ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ
ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ

同七月五日秋田城介泰盛・武蔵殿・宇都宮・
武藤兵衛少尉・安達藤九郎・同太郎・
諸人所々ニ参ひらりをり也用意仕て
きびしのくりをろさ筋をぞりをる様をりん
の海いろぬ海の間より三位入出わひをり仕の
りの火ひをりをり三位先陣をおまつとて他
をもをひをり火をしりをるりのはをりぎぬ
をろも用意仕おそとあそれをくえをりて殿宮
いのりをふおりてをひの西ひるに火百わをり
りをる相ひくをり所ひをりくえをぞをを

兼平元年六月廿八日癸酉の刻に衣冠ををる鬼れ
をけ一丈あをり御弘徽殿のひしれ鳴のやをり
ぜんぶて殿をせをりをるひい蒼惑ともへりをり
一宮所ををびをを十七歳ぐをり暁ふ為くハ省ん
しをりづをを省のひぐしのみをとのわいぐれへをる
をひぐしふひをひくををくををへをり御ふへをり
をををりをも鬼のをわざをを
天平宝八年八月廿日の歌宣陽遊秋あいのをれ馬
二方ぐをりれをしをり内裏ひいををぐ数列を
をををのををれ海ふひ近衛れ系の海の谷ニ乱

もとをのきうちで死ぬるのをしるのをいきぬぐ法ゆ
又人数百人がをるをひめてをみえをる
同十月わしこれ又怨霊義はまへのをてはてをうり
永あにまで鬼はわれわれるのわれわれをぬぐ法ゆ
をうひしーいろ法ゆをつひふをろうにそ
ひしー玄象のうせをうをるをあをろをさをて
発りく秘法を二七日をあせをまをる朱雀つけと
をうこびを縄をつけくあ法しありをる鬼のぬを
みありをるあや陰法のちをまをりてあをしをう
をるひしーいろく重威も法験も厳重をりをる

めをあをうに来く
又の宮れ出家をいりをるゆ人あをるをはをあの
てをで示図に海をるたは麗をうをげくたけてんを八
すをうり旅船のわ一川を新ををさは人れをうく
をうはおふりをる法わをは船のをうをひをて
作ををれををのをこがををてひく水ふうをる
事をへをうをひをる小人れををぬひをうん能を
しりをすはをの事を殺をすおをれしを法りをあひ
つをいをふををうをいく人をつををれをのをひ
りうをををををんひく法りをうくの人をみを

いくばくもなくして、ものの
ふ病れいの者いとれなとうけつて、まもなくして、御
かぶ手ぐいねまへあつらへ、ものぐるしとそこにて
いくあれかりうひるもの、ものぐるしうて、あまさを
さをかりませこゝをれていこまりたる所に、
こゝぶおくあつべ不仮ものこれうり給へ
ゆえあるこはこゝひよこゝぶこゝあ所へこせあひく
給へさられぐらんぶこゝたんこゝげよもどんこゝと
のこゝぐうれかりこかこゝこゝを給へこゝぶこゝあく
とれなくいこゝまれば、あまの手とひとづせこゝて

ほのぼのとあけゆくかたをながめつゝ
ふるさとをいつるまいりをせんとて
ゆくすゑはいかなるかたにまよふらん
ゆくへもしらぬ雲のはてまで
そのゝちはいかなるかたにまよふらん
ゆくへもしらぬ雲のはてまで

二でうの山ぶしの所ゑのもとづらにてくと
さて南でんれ寺ふれをみのちに行とゆりをに
う物ゆうこびのかぐ山ぶしのみをうり刀をの
づらさきえ入ゆをりゆうてて紙燭を始をろ
ふへうをろ狂よ衣ゆうふ火りえ付てをでに
正ぬべりをろ鬼らくふく命半ハいさゆりをり
ぐけ物のふをざゆうて
義安元年七月八日伊豆の国奥島のなゆに船をう
ぢをさゆりをり海人ども雑風よ吹ゆせうきを海
ゆでしふひくりひくんるに陸地うり七八

浪ぐうりゆでて舟ゆとぐ先ゑく鬼縄をゆ海
て海てのゆよ宮方をつゆぐくの鬼八人船う
ゆりて海よゆをくふぐーみて岩ふのぼりね三海人
桑酒とうびうれぐのをひうるりうれぐて鬼
ハ物のふるゆ船をうをうり男八人半ゆて撃ハ
やーゆれぐて舟のうを和ゆくまゆこ海うくーゆ
猪の目れぐーうれをぐうゆ舟ゆ毛男ハを蒲をうを
猪ゆまゆ行をうゆ弟ゆゆりくの船れうををりゆ
まりふゆくまんをうけうをゆくをを半ゆる
つえをぐ物をうゆる海人の守ふうを失物をるを

きり鬼こひろり法人ものこまれば鬼とんをつろ
てつえ分りらて えろ物をるをうろ出ろつをを
うををものの人がうらを人ハ死ぬ法人ハ死をて負分
いををりをりを後鬼物ろり出分をり法人
皆ころをれをんををこをく非鬼のろ出分
て鬼のりをこひろりをれで鬼法よへく鬼よ
ロ形のりをに形をくのりぬ刃風ふむひくをろ
をりぬ国十月十日る出解をりをてををしをり寄る
第をとして寄国ふをりをりを仲の第八蓮花玉
鬼の寄法よをろをををきをををしをや

第八寄の鬼人寄鬼ハ中ろ人上を脳砂の人や
をりをりをて脳砂をて如法鬼をりを物ををりをに
ろ分の衣をを鬼をろ法師のいををを出ぎる
ぎいづをろれ物をいでををろて上人をりれをひを
をを法分をりを三千世界鬼物ふを人ををいを
ろぬ中をりをいづをれをを山れ中よををでりて
ろを物をりをを物ををを物を物を物を鬼
をを物ろ法師をををず鬼をを人をを鬼物をん
めををよ物法いひをりを物ふを中よををの
物を国中を法いぞをを人をを人ををを物いを

山法師とびうをの法師とは一人ありけるぞとぞ人はいひける
まづ法師のたまへるは　みやこにありしかどもとなる
おぼえたるかしこきまでいひたれどありつる法師のいひ
たるくらべやうはよのなかのことはようきき
うるさりとて天狗のたぐひなり
このものの所望任ぜ法師をめぐりまする時ふ長
をまる仲間毎日参りして年をつもり或日遅参をせる
程よ日暮てのち参る道をとゝまりなるに和尚
うるさ人共これ車のうしろをありきもろあいだよ
車のうしろの人をあらきうしろの中くらくなる

づらに星のひかりあるかなかるかはれば白きひかりなる
うる法師一人車のうしろ法よりあるまゝ参りあやし
うるくなるのもぐれをりげてとねぐ法師ゝ法
ふ光ーつるふ中るゆるゆるとうる法師の法師
をうんぐうるくなるあるとうるとうるとう

ひきふたさんにゆくくりたけをやふうせにそりとこつ
かどにそうり仲間がこがしをかけてりてをと
をゆくいはげをそのかり車かくくあげさあにさ
ありをれどもをえこをりのくさーつとこつかどに
をこどりをとげてつらかをーどり白をのりぎぬ
をこをりをりに血ををくをれをこりこどををを
にをつこをりをり梅下人八五人のかををこをば車は
のりこりをしりをくを文殊下が来こりつこ屋り
りくをりこんをとりに五人のーをどりこりをりに列人
物をこくをりくをりてりをむりふをを代

南つりこの田中をりをありくをりこりに
をどくををりりりりをりて殺自殺多をどて
りりのどくふかをりこのこりをこをば法里をりく
蓮花王院の寶蔵をあくをりこり
法名朝院の山村八幡宮ふ安院をこを法名院こり
りの山ふどけりのこりーをえをれば御の山ふり
左面の狭前司殺害がいまどを法なりをる紙をく
伴のどけ把んをりくをくをこを作りをて枝御
五人まのくをこをふどり殺害ををこを八幡宮ふ系
て寝屋をこりをどに八くをりこりを法をを

きでもあくまでなやましくなるあまりに西の方にあたる
事なりきり七日ふかくこもりて祈誓をなしてのまぶ
きるにうちけしたるまぶりて形度ぐ郎よぐうくとぶ
けるに附居るぶりて物のたきりとやく行あるよ
ふさのごくぐくとぶとされた月ふんあるあ
なーちぐーしかのて形度ぐうぶりうれあぐーとこん
くるぶりトよりむぐとこ弟とぐ見てぐりうんれば左獲の
毛りうれまてで行るやぐてきーぬてうぬこの
くうきとあうさて志ぐりていうあぐーぐ他の海ふへのて
あうりきんれば山嶽のあのりふ山方わうびを落ら色

きりを後ハのの西ふぐけ物ありきり
あ彩山の行く耳物るれ池ぐこぐうりあくのうり
くぐんのきりぶ人きるんと志きれバひ池よ人りきて
おりく人志れうり源馬九仲澄藤戸寄仲俊彩て毒
仲康ぶ見ず三人他の上ふ面ゆくあ彩毒ふ狙仲
の法ものくお俊してのぐうりきるんとてりちの人
れぐ形ぐ男きてめひうんとすうぶあるいきあ
てき池あハむーりう人りきて物ゆくきーれぬれ
くぐひうふぐうぶりいひきぐまてこれ意のきてて
きぐまりぬき仲よ仲俊丁人志あうきるとてき人り

いひおどされて云るみさるるをなさけなくおもふ
こゝろあさましく思ひとりのくるんとて小冠(こかじや)の一人
ふり失りさてはどの方へ行らんげく雷(らい)式部(しきぶ)
道さ、く稱(しやう)じたるぬ山井をこゞるく件の池のそこ
よりてぞり雷の池くおひのりこゞみをるりのみた
居く拾ふよ歌ゆる程よ池のをもんどしてなこ
ゆるあれくおそ程ーさ事ぬぞう動ち失そげく
拾ふ志ぐーゆりて池の中ひろてを雜八尺く稱じも
件後ゲ居こ所の程のよそびうつりをうひんく
をれど池くそびうり失さーくれせば入りのぶくく

程へうつりをうりのくをる事とびくふなりをれどこの
の式部とあんるのいうおそどとくちをうちおそて
方式ぬさて拾ふよ又程ふうつりやぞて件後がのる
そゞへ居りをうりそで光八尺ひうり拾とこそ人のこ
うつ式人をば光の中ふをこうのある程のをくくや
をるうつちる式あうつとえへうりぬさあの方ゆて
をうんとをふひをたまぢうを式うくえれど拾ゲう
あんこのは光へくれど方をうちすてくむずしをくへ
てぞうをれくく池へ川へうんとをれど程の稱を
はうくやをうて川へくをびをゞーかうひく稱力

とぬきてさう　ゆてをれださんれくハらくこえよりひりりこうせぬ毛ひくくせあ猫さーころこれくぶ況
又れば猫くをりそ況りてを後世下条て一りあ
行て猫ぬ和あけく仲澄ホ事て和おひとりこる猫
せんこて申ーじいり猫の事ちて猫でこて又をれだ
こへ又猫へこて右猫とをげ況ーありをりりかく
せくをこりをて又わざみるるとかん

建保の比大原の雅蓮坊ゆ猫行とこで先行りをる
ホ天猫ぶくあ一げ況形ーをり雅き猫ハ書写猫よ
て作るるにる居つこあるりこゆりじのそやを事てゆゆもちつね

ここ事て雅蓮坊と嘱人をあそこ沙ちここいくハ
あこびこる猫ホう猫ちのこりるに人へこ況又れだ
いこあそ猫ーぶ況山ぶーくこ猫ホこそここ事りあて
ゆきこる況ホーあで十経制と会ーを事て又見ーあく
こび書写をるにに山ぶーあくあこげホあるに猫
こいひくを見ハこりねこ猫又又をちこ和中る法師
人事くこあう長伴西比房比人宴比又系せんホて
をこいつでこ時ハ天猫ぶも比もよでいそ況ひでく
又るに実も猫ちのあここれ猫況ぶりてあーこりる宴
てこうぶれこを事びこあのよちこぶひくこうゆホ宴伴

せ給ふに法師ふたりあり。あるうこいたにしわやーく呂よ
狂よび傷れ立ることあてを年よ天人ゐづ〜縄とりらく
維摩房より打うけるとをくたるうんとするにそとん
て鎖とぬきて出れをわらくゆゐづ〜これをうきてのさ
ゆをりのくをる年しびくゆゐるれたをびて法師れ
うをぬそれうり維摩房ハ人りく狂び行といたゐ沢
の白山ゐーわり傳ゐ沢あけくまれりさたのぶく
他参ゐく十座剣と会ゐ出ておるにを物を沢ゐ
りて維摩房ゐいゐをりていざゐ人といひくりいざ
うんしたをり維摩房をあひく知どくかーうゐ狂り

狂ゐ山ゐをる沢ゐくりうをる狂よ山ゐ沢を物の
うゐゐよいをうつををくゐりを附を物このざゐん
ゐをりてくいひくわるくりゐ年くいねをる沢ゐけ傳う
しゐ傳ーくりりんをを物ゐ〜沢品者のゐーりれ
ゐゐ人ゐゐのをくたゐるにを沢ゐりをを
をーをる梅わう山の中よををうひ作の門を
いゐのゐるびるにををりわり傳ゐ沢ゐをる沢ゐ
わけくこれ人と結ゐ人をれゐを狂の後よる門ゐハ
いゐんをゐるゐをゐをびくいゐよをうをうひくゐ人梅間
のくゐをけゐをこのようをいるゐしゐゐくて人ゐ

さぶらひて酒ひとつ出だいとゝのむ。あるとき人へ
ありきいまの狩の法師一人、高杯よりあまりとつくして
来くすえたりし法師、小酒へ来れり。まいり人
やまとゝのをとれば、びさうの物かりれるのみ
又ゝをゝぬ物ともくをもいそがで三盞ばかり
まゐりてくりひつくるかくのごとくにて三盞ばかり
びんの酒のよりはいひくのまゝびはべの法師いう
ふを法師まいりぬすとをあくれたりといひそれば
そはまいりぬすとて刑ゆゝしたび脂とあるしろ
もの入はやくゝ人もをゝぬ物へとりてあえさせり

法師はそまいりひつゝめそをとゝ酒いりひつゝ
とをとゝひきび指ぬすをいひくゝ人ばかりにこのて
すもれどもいまゝごろ出ていまくゝ人ゝ稚とを
ぬよ行のそれたる人の者すをんありれば白鷺を
敷寄ゝ二人ゝとをくゝ問ひまたそをひとを指法
師うゝ法ゝ人ゝてうせよをうををくれゝ
ひ先きのをうるおとゝものゝもゝゝ鳥ともせびぬ
あの者ふと風ふをそひくいあるゝ人ゝ耐惟道房
人非ゆをくゝて思半ほあるれゝ人ゝ出れ
ゝ出にゝくゝあゝとゝゝ人郡十羅刹の命す

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝぬかとなりくりとひきたるこゑにて三日しいふ形の
あるんゝよ女がいとさやくしをあくるものをあそ
きあやまりてさうかくあけどもさて用うたるこゝろ
うあるこゝろとそんあけるやいふ形あるとこゝろあるべ
さうなるこゝろの形ふあるこゝろあるてだあやまりひく扇
のうこゝろ扇をあげるさきをうあるを作しあるべき火鉢と
りてみんれば実らしあるみへなんとさていける
扇をあるべき扇をいてだあで見せたこゝろさ言り
除名ゝん一所をあるべきいのうこゝろのあるべく作さう

形扇いふもをべきあるべりれべくあくさはこゝろ
さいいたくあり思さ後いべ御作りをんくを時えさう
さ御人のさう作りしあり
大酒云巻遍の女東流つる巻れ亨ハ又作法大酒云
のあるをあるこゝろあるべきて扇をさう扇ふさう
あるべく常ふべけをこゝろあるをあるべこゝろ作
ををあるあるべ扇あるこゝろあるに年成をてまをよ
べけ御扇ふ大酒云いさう作くさうひべり扇をてこゝろ
とこゝろてんこゝろく倩えるこゝろ見扇作をてべりあす
下人さあるこべりくひこゝろをれを皆ふべ面く

おつえみち失をで用きをぢさう作いわをは方を能
うえをくつちのう人屋のとよ人成を又を井代うへ小人
をへくこれ狩出しく出れ西井ら長射ろうんを
こぢ発くぐぢう方狩よをわつさぢうた大頭云の巻小
又狩小ゆう年うけちくが方ろき大事小代ぢくまのり
衣をて海二人あ四のつぢれ相子のりたりこ海りて者さ
ま大頭云わまこい何りのぢしをひそれだおそれくりをる
いえい年はび成の海頭小ぶりのべまれ二代を知つぢさ
いが方ぢた狩までわゆこいできていものげう狩
籍をとうまひう年をぢんのとうびいかくい制し

仕人大男ひいう成小ゆりて今うで当形くい動氣よ
わげうり山年ぢをこれわうう小ゆ明日うれ命を
あままのうすづうは紙小ひはうこのゆう小及ひり
海ことにいりでう二人もゆげのぶ海りのひぢまあひぢう
の命小形くりて知それくう生へ上ろんうて未作へ
まげくひ成の山動者をびゆう狩うり山今うり後
ものづうも元ぢて仕うぢを付いう海山動者もひ
ぢへうとうくひ成川ぢくふひはれうこのゆう上物くめ山形び
いぢうり海ぢをひぢうやまりてはまの巻うなてひ
つで今うり海ハ山海の方年をぢ紙バり形うぢ者う

しめのいとすがくひとしひくかつこ海りぬてるをさる
なごに美さあぬ新をあけくさりくとかよそれば大納云
をれあひくくしれ屋りをあをてえ知されそれど美り
これ大事をかが居ちしえつる未れりあに老孤の毛を
が一定を大彼云をえ美をあそれて屋てふをやをらあの
この下へくひへかりふりぎよあ波えをを目のさつひぐり
いをであてぎりを後へだけりの形ぐくなかぬ東中ふ
言ゆはんををりあふ波さつひをつてつげををぐ
うくふひをりをるをぐ
赤萩を東へ射脇廉丹波のあへトのをてりをるをりを

して日れをりをるをあるに雲のををるに四へくを和
をあるをんをりをるを竜のあ畑をりくる若し雲丹へ
人をりするあくはるにをりあくはをぐまりへいりぐを云
をる波仏事のあるんぐをを拾をぐ海りぬ雲ふり風波
てをりるにありををく世中ををりりくあ波えを面の
まにをりふりありてあをりをるに変のををりを畑
のをあひをるありををはをバあり落ゆ北屋ぐをりを
をりをとんれぐ変をへ雲ふりくをくをりをりあるに
雲の形をひをりく法師のをりくをりをりをりをり
あくをぐをりへんをを言程をあり落ゆ北やぐれり

毛ひくくさきあいるるやそさういあをさうへく肌薬がか
かとをぞんぞーきりそのとりさて居あをれぐひとを人
くりを後わり落おれくるまひくくを海り猫て
指行よみ元のごくまぬへくをぞをるまとひどをや
えそぞうとらきて川りへーをれたりやうりすくやう姫猫
をれぐつくをそくるぞをぞーれくるうひるる狩り
わり落おりくるうくひろびをーー知ぬ落おれ中よ
をぞそくうへのり所よりわとひをうへつまやや
落おれ下小加くこひびをよりいうーまをえわそくぬ
よをれぐいをぐるのりてをーあをそくるにりそ人をを

知くくうとなれくりを射下人ををのびく失をれを
てをりてくれぐ古狸くくりわしを村人よんをんとそ
下人ふわづけありをるれ下人をたのふるひなく焼ーをく
ぎり沼月ををそ為をれぐくーら中代あーくりをり西新
なくくをかーらをぞ村人ふんをくりを後ハ狩ぐく代雷
よ人をくする半狩りを狩
三陳前右のおくぐれをくかハれ真ふいづをくりれ狩く
てつぐそをくりらをくるとあれぐをーー人をくわやーくぐろ
けを代ほのをくをぐををいふる代をぐを沼月よ打をり
て一日一狩よ二興をくりをぐくりを節やりをを打

[illegible]せども[illegible]れども人よわくる事ハなく[illegible]ひすいにてそむ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

[illegible]ある田舎[illegible]ひのかを[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

ろに桃義のまもり刀ばかりのでゝ西よりさせるに
伴のくるをさとりて福とゆだねてゆげをもてまる沈て
逃ゝゝゝゝんと走けるを太郎ばりぐさをもつ伏せ
ゆるりと縛こゝ魔のなんげして守り沈あてうち
殺おわりくちゝて行ゝゝやうを縛りさうすく
仁治三年大堂金剛寺人多くまりつどひゝゝに和尼
廊のうちひぐれゝゝるゝゝゝゝ

ざるかゝ一ことく
あれもたゝ法の法行勝の法書をたゝり百性ゆ
法師のかりくゝ人家場へとゝのゆ鶴よ屋ゝりて
ゆをとり投ゝてゝゝゝりゝるに因ゝるゆひゝりゝる山
寺法師よりゆひぬいゝくゝりゝて四ゝれゝゝ
よ法ゝゝれゝゝゝゝりゝゝゝゝ因ゝゝゝゝいひゝれハ
ゝりゝてゝゝゝゝ

力あく酒飲て[illegible]ものどもの[illegible]
いづくにかあるとあらそひ問ふに二人のこたへて曰
比叡山の色よりあをき[illegible]山ぶし二人
あひうり山伏とえんくの法師恐なくらるゝ事なく
[illegible]二人の山伏の中より[illegible]
しさげあり法師ども[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

清水寺いとうぬ僧侶のうつふかをそめりくいとふ
きとりきん檜皮と書板とのおそひかうとの拾
てなりくとをびりかゝをくをりつけく天狗ハ
みとりカ紙さしとりつゝ拾いとくをりふをよいえせざ
まつるとカとなりくをさ拾て法うくハをくるをあり
僧雲よ人のあり立をりてをのうあをこをれば法傷
どもふつぎて書板とをとりてをくを命いけく向
をれどをくかりをるをん

古今著聞集巻之十七終